

教育研究業績書

2018年11月21日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：講師

氏名：幸野 邦男

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|---|--|
| 女性スポーツ健康センターと共同研究の元海外女性スポーツ組織との連携を図り、女性アスリートのコーチング法開発研究。スポーツ英語教育による国際舞台で活躍できるグローバル人材育成。日本国政府下のスポーツ庁の掲げるスポーツ立国政策の一環として、アスレチックデパートメントの構築かつ米国NCAAの日本への応用。日本経済の躍進に欠かせない女性リーダーシップ教育論、女性が活躍できるダイバーシティ社会への推進を図る。 | 女性スポーツ、リーダーシップ、コーチング、スポーツ英語、アスレチックデパートメント、NCAA |
| 学位 | 最終学歴 |
| 修士：アラバマ大学（米国） 学士：アリゾナ大学（米国） | アラバマ大学（米国） 修士課程修了 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|-------------------------------------|-----------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. スポーツアントレプレナーシップ育成米国演習 | 2018年3月15日～2018年3月28日 | 健康とスポーツの視点からイノベーション教育を通して、社会環境問題を解決するための実践的なアイデアベース企画とプログラム、そしてビジネスプランを構築した。起業案を含めたパワーポイントプレゼンテーションを英語で作成し、投資家や起業家に米国で英語でのプレゼンテーションをニューメキシコ大学で行った。 |
| 2. 米国大学学生アスリートのスポーツ健康科学教育とコーチング | 1995年4月1日～2016年6月3日 | ヘッドコーチとして、トレーニングとコーチングのスポーツ科学健康教育。17名のオリンピック水泳選手輩出。多数のナショナルチームメンバー水泳選手輩出。学生アスリートとしての学業とスポーツの両立を指導 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. 米国ニューメキシコ大学のアスレチックデパートメントの行動規範教材 | 2014年12月15日 | ニューメキシコ大学のアスレチックデパートメントにおける学生アスリートの学業競技力向上にむけての戦略委員会の一員として、行動規範教材を作成。成果として、UNM水泳部は、全米4位の学業成績（GPA）を取得 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. エリート水泳コーチ講習 | 2016年9月17日 | 和歌山県のエリート小中高生水泳選手を対象とした実技講習を実施。米国のコーチングメソッドによるテクニック、トレーニング概念を用いた実技講習を実施。また和歌山県選抜コーチ陣を対象としたテクニックとチーム構成を対象とした講義を行った。 |
| 2. 武庫川女子大学アスリートセミナー | 2016年12月15日 | 米国大学と日本における大学の組織的な違いと学生が学業に対する姿勢 |
| 3. びわこ成蹊スポーツ大学にて講演 | 2013年4月16日 | アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演 |
| 4. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演 | 2000年4月19日 | アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演 |
| 5. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演 | 1999年5月18日 | アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演 |
| 6. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演 | 1998年4月17日 | アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演 |
| 7. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演 | 1997年4月17日 | アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演 |
| 8. 英語によるコーチング | 1994年12月24日～2016年6月3日 | 24年間英語によるコーチングを米国大学生に指導 |
| 4 その他 | | |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|----------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. American Swimming Coaches Association (ASCA) Level 4 | 2016年2月1日 | |
| 2. NAUI Nitroxダイバー | 2003年10月11日 | |
| 3. PADI アドバンスオープンウォーターダイバー | 2000年10月1日 | |
| 4. 日本スキー連盟2級 | 1992年2月1日 | |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 米国パンパシフィック水泳ナショナルチームスタッフ | 2018年8月4日～2018年8月15日 | 2018年8月に東京（競泳）と千葉（オープンウォーター）で行われた、国際水泳大会、パンパシフィック水泳選手 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|--|-------------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 2. 大学コンソーシアムKANSAI理事 | 2018年4月1日～現在 | 権大会にて、米国ナショナルチームスタッフとしてチームをサポート。 |
| 3. 大学スポーツ推進特別委員 | 2017年6月2日～現在 | |
| 4. 全国大学体育連合近畿支部運営委員 | 2017年5月1日～現在 | |
| 5. 大学スポーツ振興関西地区検討会幹事校委員 | 2016年11月1日～現在 | |
| 6. 米国水泳連盟ナショナルチーム日本サポートスタッフ | 2016年10月11日～現在 | |
| 7. 順天堂大学女性スポーツ健康センター協力研究員 | 2016年10月1日～現在 | 学生女性アスリートの学業と競技レベルの向上を目指すため、タイトルIXの研究。全米体育協会(NCAA)のルール規範を熟知する上で、日本国政府下のスポーツ庁の掲げるスポーツ政策の一環として、産学官連携事業のスポーツ国際交流、スポーツ留学、スポーツ産業の発展、地域スポーツ活動との連携を促進し、高齢者への健康管理、若手アスリートへの夢と挑戦、スポーツイノベーションの研究を行う。米国の最先端施設や大学等を視察し、日米国際スポーツ健康学やスポーツ産業比較論を展開。全米大学体育協会(NCAA)を調査研究し、また米国大学におけるアスレチックデパートメントの調査、大学スポーツマネジメント研究。 |
| 8. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究 | 2012年7月1日～2016年6月3日 | ニューメキシコ大学ヘッドコーチ |
| 9. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究 | 2003年7月1日～2012年6月30日 | ネバダ大学ラスベガス校アソシエイトヘッドコーチ |
| 10. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究 | 2001年7月1日～2003年6月30日 | アラバマ大学アシスタントコーチ |
| 11. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究 | 1994年8月20日～2001年5月12日 | アリゾナ大学アシスタントコーチ |
| 12. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究 | 1994年4月1日～1994年8月19日 | 南カリフォルニア大学ボランティアコーチ |
| 4 その他 | | |
| 1. Japan Open Swimming Championships | 2018年5月24日～2018年5月27日 | 出場選手3人を輩出 |
| 2. 第94回日本水泳選手権大会 | 2018年4月3日～2018年4月8日 | 出場選手2人を輩出 |
| 3. 日本学生水泳選手権大会 | 2017年9月1日～2017年9月3日 | 女子総合15位 |
| 4. Japan Open Swimming Championships | 2017年5月19日～2017年5月21日 | 出場選手2人を輩出 |
| 5. 第93回日本選手権水泳競技大会 | 2017年4月13日～2017年4月16日 | 出場選手2人を輩出 |
| 6. 武庫川女子大学水泳部副部長 | 2016年9月1日～現在 | |
| 7. 第17回アジア選手権 | 2014年9月1日～2014年10月4日 | 出場選手を1人輩出 |
| 8. 第12回パンパシフィック水泳大会 | 2014年8月21日～2014年8月25日 | 出場選手を1人輩出 |
| 9. 第90回日本水泳選手権 | 2014年4月10日～2014年4月13日 | 2位入賞選手を1人輩出 |
| 10. 大学歴代最高結果を全米山岳リーグにて獲得 - ニューメキシコ大学 | 2014年2月22日 | MWC(全米山岳リーグ)大会ではチーム成績最高5位を果たす |
| 11. 米国大学1部リーグ水泳部学カランキング4位獲得 - ニューメキシコ大学 | 2014年1月21日～2015年12月12日 | 2014, 15の春学期にて、CSCAA(全米大学コーチ協会)1部リーグ学業成績ランキングで全米4位獲得(GPA: 3.61) |
| 12. 全米水泳選手権 | 2013年6月25日～2013年6月29日 | 3位入賞選手を1人輩出 |
| 13. 全米大学1部リーグ水泳部学カランキング20位以内 - ニューメキシコ大学 | 2013年～2016年6月3日 | CSCAA(全米大学コーチ協会)1部リーグにてチーム学業成績を通年で全米20位以内を獲得維持(平均GPA: 3.59) |
| 14. 58学校記録を4年間で更新 - ニューメキシコ大学 | 2012年7月1日～2016年6月3日 | 過去4年間で58種類の学校記録を更新 |
| 15. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校 | 2011年3月24日～2011年3月26日 | チーム19位 |
| 16. 男子山岳リーグ水泳選手権(Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2011年2月23日～2011年2月26日 | チーム優勝 |
| 17. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校 | 2010年3月25日～2010年3月27日 | チーム21位 |
| 18. 男子山岳リーグ水泳選手権(Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2010年2月24日～2010年2月27日 | チーム優勝 |
| 19. 第10回世界短水路水泳選手権 | 2010年12月15日～2010年12月19日 | 出場選手を1人輩出 |
| 20. 第25回ユニバーシアード選手権水泳競技大会 | 2009年7月1日～2009年7月12日 | 出場選手を2人輩出 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|-------------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| | 日 | |
| 21. 女子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校 | 2009年3月19日～2009年3月21日 | チーム34位 |
| 22. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2009年2月25日～2009年2月28日 | チーム優勝 |
| 23. ヨーロピアン短水路水泳選手権 | 2009年12月10日～2009年12月13日 | 出場選手を2人輩出 |
| 24. 北京オリンピック | 2008年8月9日～2008年8月17日 | 水泳競技出場選手を3人輩出 |
| 25. 米国北京オリンピックトライアル | 2008年6月29日～2008年7月6日 | 出場選手を4人輩出 |
| 26. カナダ北京オリンピックトライアル | 2008年3月25日～2008年3月30日 | 出場選手を2人輩出 |
| 27. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2008年2月20日～2008年2月23日 | チーム優勝 |
| 28. 第24回ユニバーシアード水泳競技大会 | 2007年8月11日～2007年8月17日 | 出場選手を2人輩出 |
| 29. スウェーデンナショナル水泳競技大会 | 2007年7月30日～2007年8月4日 | 男子100m平泳ぎ優勝者を輩出 |
| 30. パンアメリカン選手権水泳競技大会 | 2007年7月16日～2007年7月22日 | 出場選手を2人輩出 |
| 31. カナダ春季ナショナル水泳競技大会 | 2007年3月20日～2007年3月24日 | 男子100mバタフライ優勝者を輩出 |
| 32. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2007年2月21日～2007年2月24日 | チーム優勝 |
| 33. パンアメリカン選手権水泳競技大会 | 2006年8月17日～2006年8月20日 | 出場選手を1人輩出 |
| 34. カナダナショナル水泳競技大会 | 2006年8月1日～2006年8月6日 | 男子100mバタフライ優勝者を1人輩出 |
| 35. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校 | 2006年3月23日～2006年3月25日 | チーム28位 |
| 36. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2006年2月22日～2006年2月25日 | チーム優勝 |
| 37. 第23回ユニバーシアード水泳競技大会 | 2005年8月12日～2005年8月20日 | 出場選手を2人輩出 |
| 38. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校 | 2005年3月24日～2005年3月26日 | チーム24位 |
| 39. 女子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2005年2月23日～2005年2月26日 | チーム優勝 |
| 40. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校 | 2005年2月23日～2005年2月26日 | チーム優勝 |
| 41. アテネオリンピック | 2004年8月14日～2004年8月21日 | 水泳競技出場選手を1人輩出 |
| 42. 第7回短水路世界水泳選手権 | 2004年10月7日～2004年10月11日 | 出場選手を2人輩出 |
| 43. アラバマ州マスターズ水泳大会 | 2003年8月23日～2003年8月24日 | チーム優勝 |
| 44. 男子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学 | 2003年3月27日～2003年3月29日 | チーム12位 |
| 45. 女子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学 | 2003年3月20日～2003年3月22日 | チーム18位 |
| 46. NCAA All-America (全米 トップ16位入賞者) 表彰 - ネバダ大学ラスベガス校 | 2003年～2011年 | NCAA大会(全米大学選手権大会)に14人選手を輩出し、44回のAll-America(全米トップ16位入賞者) 表彰 を得る |
| 47. ヨーロッパ水泳選手権 | 2002年7月29日～2002年8月4日 | 出場選手を3人輩出 |
| 48. 世界短水路水泳選手権 | 2002年4月3日～2002年4月7日 | 出場選手を2人輩出 |
| 49. 男子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学 | 2002年3月28日～2002年3月30日 | チーム20位 |
| 50. 女子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学 | 2002年3月21日～2002年3月23日 | チーム15位 |
| 51. アラバマ州マスターズ水泳大会 | 2002年～2003年 | 6選手をアラバマ州大会優勝に導く |
| 52. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 2001年3月29日～2001年3月31日 | チーム6位 |
| 53. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 2001年3月22日～2001年3月24日 | チーム5位 |
| 54. 女子PAC-10水泳選手権 - アリゾナ大学 | 2001年3月1日～2001年3月3日 | チーム優勝 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|--|-----------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| 55. NCAA All-America (全米 トップ16位入賞者)表彰 - アラバマ大学 | 2001年～2003年 | 7選手をNCAA大会に輩出し16回のAll-America表彰を得る |
| 56. シドニーオリンピック | 2000年7月20日～2000年7月26日 | 水泳競技出場選手を4人輩出 |
| 57. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 2000年3月23日～2000年3月25日 | チーム3位 |
| 58. 男子NCAA水泳選手権 | 2000年3月23日 | 短水路50m自由形でRoland Schoemanが 世界記録更新 |
| 59. 女子PAC-10水泳選手権 - アリゾナ大学 | 2000年3月2日～2000年3月4日 | チーム優勝 |
| 60. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 2000年3月16日～2000年3月18日 | チーム2位 |
| 61. 第8回パンパシフィック水泳選手権 | 1999年8月22日～1999年8月29日 | 出場選手を2人輩出 |
| 62. 第20回ユニバーシアード水泳競技大会 | 1999年7月4日～1999年7月9日 | 出場選手を4人輩出 |
| 63. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1999年3月25日～1999年3月27日 | チーム5位 |
| 64. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1999年3月18日～1999年3月20日 | チーム4位 |
| 65. グッドウィルゲーム水泳選手権 | 1998年7月28日～1998年8月2日 | 出場選手を2人輩出 |
| 66. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1998年3月26日～1998年3月28日 | チーム6位 |
| 67. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1998年3月19日～1998年3月21日 | チーム2位 |
| 68. 第19回ユニバーシアード水泳競技大会 | 1997年8月24日～1997年8月30日 | 出場選手を4人輩出 |
| 69. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1997年3月27日～1997年3月29日 | チーム16位 |
| 70. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1997年3月20日～1997年3月22日 | チーム4位 |
| 71. アトランタオリンピック | 1996年7月20日～1996年7月26日 | 水泳競技出場選手を3人輩出 |
| 72. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1996年3月28日～1996年3月30日 | チーム14位 |
| 73. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1996年3月21日～1996年3月23日 | チーム6位 |
| 74. 第18回ユニバーシアード水泳競技大会 | 1995年8月24日～1995年8月28日 | 出場選手を4人輩出 |
| 75. 第6回パンパシフィック水泳選手権 | 1995年8月10日～1995年8月13日 | 出場選手を1人輩出 |
| 76. 米国大学1部リーグ水泳部での指導かつチームの運営 - ニューメキシコ大学、ネバダ大学、ラスベガス校、アラバマ大学、アリゾナ大学、南カリフォルニア大学 | 1995年7月1日～2016年6月3日 | 米国大学で唯一かつ初めての日本人水泳部ヘッドコーチとして日本を含む全世界からの勧誘とオリンピックレベルに至るコーチングを行っている。NCAA一部リーグ大学のヘッドコーチのポジションとして、スポーツ栄養学、コーチング学、組織論、バイオメカニクス、スポーツ心理学を学生アスリートを対象に指導。また生徒指導から学力向上のサポートかつ個々の学業成績を管理、監督する |
| 77. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1995年3月23日～1995年3月25日 | チーム8位 |
| 78. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1995年3月16日～1995年3月18日 | チーム5位 |
| 79. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1995年～2001年 | NCAA大会に15人男子選手を輩出し無数のAll-America 表彰を獲得 |
| 80. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学 | 1995年～2001年 | NCAA大会に16人女子選手を輩出し無数のAll-America 表彰を獲得 |
| 81. 全米水泳選手権 | 1994年8月10日～1994年8月13日 | 全米選手権チーム3位 |
| 82. 全米春季水泳選手権 | 1994年4月6日～1994年4月9日 | 全米春季選手権チーム5位 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|-----------------------------------|---------|------------|-------------------|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. 大学スポーツの新展開 - 日本版NCAA創設と関西からの挑戦 | 共 | 2018年4月10日 | 晃洋書房 | Chapter 5、学生スポーツの指導者 01 学生スポーツの指導者とは (p115 ~ p120) 02 『人材』を育てる指導・コーチングプログラム (p120 ~ p125) |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|----------------|---|---|
| 1 著書 | | | | |
| | | | | 04 現状の学生スポーツの指導者の課題 (p130 ~ p135) |
| 2 学位論文 | | | | |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. The Pedagogy of swimming classes at university in the United States | 共 | 2018年2月23日 | 武庫川女子大学 学校教育センター | The purpose of this paper is to report the pedagogy of swimming courses at the Department of Health Exercise and Sports Science, the University of New Mexico in the United States as a case report. p119 ~ p129 |
| 2. Balance and Falls Prevention in the Elderly | 共 | 2002年 | アラバマ大学大学院、健康学科 | バランス能力の低下から転倒に至る 関連性は、現代の高齢者にとって深刻かつ最も指摘される問題である。我々のがサーチした結果、環境のあり方、身体的なコンディション、薬品摂取による身体的要因、最後にアクティビティとの関連性である。この論文の焦点は、高齢者による習慣的なバランスエクササイズ計画やそのプログラムへの参加を促すための環境だけでなく、転倒を減少させまた予防するためのプログラムを構築する。著者: Kono, Kunio, Moore, K., Tatum, A. |
| 3. Health Behavior Portfolio | 単 | 2002年 | アラバマ大学大学院、健康学科 | すべての高齢者が転倒を防ぐための 予防措置をとるべきことの認知度を 上げることを目的とする。この目標を達成するために、60%のプログラム参加高齢者が、都市圏のコミュニティに在住し、高齢者の転倒の危険性、重症度を認識している参加者のうち、シングルスタンステストによって測定するとこのプログラムを完了した 80%の参加者は、下半身の強さとバランスを増加した。その内 75%は、食事中的カルシウムとビタミン D の摂取が増加したことを示した。健康信念モデルは、このプログラムのために適応するための最も適切な理論として考察する。著者: Kono, Kunio |
| 4. Prevention of Female Athlete Triad (PFAT) Program | 単 | 2002年 | アラバマ大学大学院、健康学科 | この論文では、主に女性アスリートに見られる三主徴であり、大きな三つの要因である摂食障害、無月経、骨粗鬆症についての解決策の糸口を見つけるための新しいプログラムを構築、提案する。一つの目標として、その特徴を分析し、女性アスリートの三主徴をいかに予防し、その数を減少することができるかというPFAT プログラム” Prevention of the Female Athlete Triad (PFAT)”をアラバマ大学で試験的に目標を設置し、実施した。著者: Kono, Kunio |
| 5. Analysis Program for the U.S. National Swim Team Athlete | 単 | 2002年 | アラバマ大学大学院、健康学科 | この専門的論文は、米国水泳ナショナルチーム所属の選手における栄養摂取状況をきめ細かい実地調査により分析し、それに基づいて書かれたものである。この論文の意図は、米国水泳連盟の食事療法に対する分析を評価しつつこの食事療法プログラムを評価するために二つの視点に注目した。米国水泳ナショナルチーム 選手数が増加傾向にある栄養摂取への取り組み。もう一つは米国水泳ナショナルチーム選手のパフォーマンスの向上。著者: Kono, Kunio |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 1. 第3回カレッジ・スポーツ・シンポジウム | | 2017年11月26日 | 全国大学体育連合 | 総合司会を兼ね、各登壇者へのコメント、質疑。 |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. Psychometric Properties of the Japanese Version of the Controlling Coach Behaviors Scale in the Sport Context | 共 | 2018年7月1日 | The Asian-South Pacific Association of Sport Psychology | The Purpose of this study was to assess the factorial validity of a Japanese version of the Controlling Coach Behaviors Scale (CCBS; Bartholomew et al., 2010). |
| 2. 武庫川女子大学における運動部学生に対する学習支援事例 | | 2018年6月9日 | 大学教育学会第40回大会 | スポーツ庁が日本版NCAA設立を進め、大学スポーツが大学教育の一環として検討されることで、これからのスポーツ産業がもたらす日本経済への貢献に大きな期待がかけられていることが見受けられる。米国の文武両道とルールの事例と武庫川女子大学スポーツセンターが実際に行っている先進的学習支援の事例を報告する。 |
| 3. 1. Japanese Swimming System - How we make successful swimmers. 2. Swimming at University Level in Japan. 3. Panel 4. My Career from JP to US and back again | | 2018年1月11日~14日 | World Aquatic Development Conference | 1. 日本水泳界のこれまでの歴史の中でポジティブに培って来たもの、また現在の成功を収めるための引き金となった歴史における重要事項を発表 2. 米国の大学と日本の大学におけるスポーツ（水泳を中心とした）の取り組みや、米国NCAAと日本水泳連盟・学生連盟との比較を発表 3. CSCAA理事、カナダ水泳連盟ナショナルチームデ |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|----------------|---------------------------|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 4. 大学アドミニストレーターの新しい役割と可能性～日本版NCAA創設に向けた行政の取り組み～ | | 2017年6月10日 | 大学教育学会第39回大会 | イレクターとの、今後の世界レベルでの課題をパネリストとして討論 4. 自身の経験をもとに、モチベーション向上法、ゴール・目標・夢への軌跡の描き方 日本版NCAA創設に向けた行政の取り組みと、大学アドミニストレーターの新たな役割と可能性について山梨学院大学、文教大学、武蔵野美術大学、関西大学と武庫川女子大学の代表によるラウンドテーブルによる討論 |
| 5. 武庫川女子大学スポーツセンターの事例報告 | | 2017年5月26日 | 大学スポーツ局長全国協議会、全国大学体育連合 | 大学体育連合主催による第一回大学スポーツ局長全国協議会において、武庫川女子大学スポーツセンターの事例発表 |
| 6. 大学アスリートに対する武庫川女子大学の主な取り組みと事例 | | 2017年4月23日 | 大学スポーツ振興関西地区検討会 | 学生アスリートが入学前、在学中、卒業時、そして卒業後に武庫川女子大学がどのようなサポートを行い、また各部署や学部との連携を事例に発表。 |
| 7. 武庫川女子大学スポーツセンターにおける、学業支援、学生支援の事例報告 | | 2017年11月26日 | 大学スポーツ振興関西地区検討会 | 武庫川女子大学スポーツセンターの現学生アスリートの学業支援プログラムと、これからの日本版NCAAを視野に入れた学生・学業支援計画を報告した。 |
| 3. 総説 | | | | |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. 「大学における学生アスリート対象の学習支援プログラムの開発」研究の研究分担者として資料収集と調査 | 共 | 2018年6月22日～28日 | N4A Convention, 米国ワシントンDC | 科学研究費補助金・基盤 (C)採択プログラムのための研究調査 |
| 2. 関西SDGsフォーラム | 単 | 2018年10月16日 | 関西SDGsプラットフォーム | 関西SDGsフォーラム「健やかな未来を創る関西からのアクション」にてヘルスケア・スポーツの現場から「質の高い教育」と「ジェンダー平等」、「学アスリート指導」について講演。 |
| 3. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年9月1日 | ベースボールマガジン社 | 全米大学の水泳シーズンについて3月末のNCAAに向けたシーズンと、8月の全米選手権に向けたクラブチームのシーズンを解説。アトラクタ五輪銅メダリストで、テネシー大学からHOTに移籍したのジュレミー？リン選手にインタビューした。著者：幸野邦男 p. 74-75 |
| 4. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年8月1日 | ベースボールマガジン社 | 1999年度に開催される国際大会や2000年のオリンピックに大きく期待される新生と言われる2選手、モハメッド選手とシューマン選手にフォーカスし、インタビューを実施。彼らのこれらの大会でのタイトルを得るための必要な要素を聞き出した。著者：幸野邦男 p. 72-73 |
| 5. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年7月1日 | ベースボールマガジン社 | アメリカの水泳ファンにとって毎年3月末に行われるNCAAは見逃せないもの。選手、コーチ、学校、家族が一丸となって競うこの祭典の大会ハイライトをアリゾナ大学のパフォーマンスにフォーカスしつつ執筆。著者：幸野邦男 p. 70-71 |
| 6. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年6月1日 | ベースボールマガジン社 | 米国大学生の学業とスポーツの両立の現実について、彼らのそのバランスの保ち方、また学業を優先させかつ世界で選手として戦うための経験と試練に迫った。そして学業だけでなく、プロフェッショナルとして職業と水泳の両立をこなすモラー選手にインタビューした。著者：幸野邦男 p. 72-73 |
| 7. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年5月1日 | ベースボールマガジン社 | 可能性と努力について2人の世界のトップスイマー、ゲイリーホールジュニアとエイミーバンダイケンのインタビューを交えながら水泳を国際的視点で執筆。著者：幸野邦男 p. 84-85 |
| 8. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年12月1日 | ベースボールマガジン社 | 世界の第一線にいる競技者たちを筆者のアリゾナ大学でのコーチングの経験を元に執筆。彼女？彼らが思い、願い、それを基に走り続ける純粋な競技者の姿勢を筆者の言葉で表した。著者：幸野邦男 p. 74-75 |
| 9. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1998年11月1日 | ベースボールマガジン社 | 全米水泳に絶対的な信頼を得るアリゾナ大学ヘッドコーチのフランク？ブッシュ。彼のコーチングに密着し、インタビューを得て米国ナショナルチームのコーチングを細かく描いた。彼の元から数多くのオリンピック選手が育ち、またメダリストが育った。米国コーチングの真の髄を描く。著者：幸野邦男 p. 70-71 |
| 10. スイミングマガジン、アメリカンドリーム | 単 | 1997年5月1日 | ベースボールマガジン社 | 3年目の経験となった米国大学運動連盟(NCAA)一部リーグでのコーチングを執筆。アリゾナ大学に所属するベッパ兄弟のナショナルタイトルを得た |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---------------------------------|---------|-------------|-------------------|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 11. スイミングマガジン、アメリカンドリーム | 単 | 1997年4月1日 | ベースボールマガジン社 | 業績とその彼らの強さの秘密取材した。著者：幸野邦男 p. 92-94 筆者の渡米を実現させた一つのきっかけから 1994年に入学したアリゾナ大学、ワイルドキャッツ、でのコーチングを通しての学びと選手、チャドカービン、との出会いについて著者の経験を元に執筆した。著者：幸野邦男 p. 73-75 |
| 12. スイミングマガジン、アメリカントーク | 単 | 1997年12月1日 | ベースボールマガジン社 | アリゾナ大学アシスタントコーチとして典型的なアメリカ人選手の自己主義について、ユーガーターナー選手の挑戦、経歴、そして彼の水泳に対する思いを執筆。著者：幸野邦男 p. 70-72 |
| 13. スイミングマガジン、アメリカンドリーム | 共 | 1997年1月1日 | ベースボールマガジン社 | 今までに数多くの水泳コーチや選手が米国を訪れ、その誰もが米国の魅力にはまった。今井茂もその一人である。米国人だけでなく日本人の彼が求めたアメリカンドリーム、今井茂の経験を描いた。共編著：今井茂、幸野邦男 p. 50-52 |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 大学における学生アスリート対象の学修支援プログラムの開発 | 共 | 2018年4月1日現在 | 科学研究費補助金・基盤研究(C) | 研究代表者：長倉 富貴 (山梨学院大学) 研究分担者：幸野邦男 (武庫川女子大学)・東原文郎 (桜美林大学)・石川勝彦 (山梨学院大学) 連携研究者：小林勝法 (文教大学) 助成金額：4,99万8千円 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|-------------------------|---|
| 1. 2018年8月4日～2018年8月15日 | 米国パンパシフィック水泳ナショナルチームスタッフ |
| 2. 2018年4月1日～現在 | 大学コンソーシアムKANSAI理事 |
| 3. 2017年4月25日～現在 | 大学教育学会会員 |
| 4. 2016年12月8日～現在 | 日本スポーツマネジメント学会会員 |
| 5. 2016年11月16日～現在 | 全国大学体育連合会員 |
| 6. 2016年11月1日～現在 | 大学スポーツ振興関西地区検討会幹事校委員 |
| 7. 2016年10月11日～現在 | 米国水泳連盟ナショナルチーム助役 |
| 8. 1995年～現在 | American Swimming Coaches Association (ASCA) 会員 |